



図書館だより

終戦の2年後の1947（昭和22）年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

第1回「読書週間」は11月17日から23日でした。これはアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が11月16日から1週間であるのにならったものです。各地で講演会や本に関する展示会が開かれたり、読書運動を紹介する番組が作られました。いまの10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）になったのは、第2回からです。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。

今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらおうきっかけとなることを願っています。



図書委員からのお薦めの本

『誰かのことを思って苦しいなら、どれだけ自分が非力でも苦しむべきだと、私は思う。その苦しみを大切にすべきだって。』

アメリカ人の父と日本人の母のもとへ、養子としてやってきたシリア生まれのアイが、親友や恋人との出会いにより、少しずつ自分を確立していく物語です。この本は世界中に溢れている悲劇との向き合い方について教えてください。圧倒的に優しい“i”は確実に存在すること、私は誰かにとっての“あなた”であること、“みんな”であること“世界”であるということも。

自分の存在価値や大きな愛について触れられる本なので、人生で1回はぜひ読んでいただきたいです。

「i」



著者：西 加奈子